
孫家の美尻の弟

たろう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孫家の美尻の弟

【Nコード】

N9973Z

【作者名】

たろう

【あらすじ】

大学生活を送っていた矢先、乗っていたバスが事故に遭い、転生。生まれ変わった先は、蓮華の弟！？

プロローグ（前書き）

初投稿なんだな

プロローグ

s i d e . ? ? ? ?

「蓮！れーーーーーーん！」

もう、どこにいつちやたんだろう。さっきまで鬼ごっこをしていたのに急に居なくなっちゃった。

まったく、蓮はすぐこうやっていなくなる。いっしょに遊んでいた思春と明命も蓮が居なくなって寂しそうだ。

「（仕方ないなあ、わたしはお姉ちゃんだからねっ！見つけてあげなくちゃ！）」

3

s i d e . 蓮

(眠い . . .)

俺は木の陰に寝転びながらウトウトしていた。

5歳児の俺にとっては睡魔に抗うというのは、不可能に近い。

(. z z z z)

そしてついに睡魔に負けた。

side・思春

さつきまで、遊んでいた蓮様が急に居なくなつたため、蓮華様と明命と一緒に探しているのだが、一向に見つからない。

「もっつ！蓮ったらどこにいったのよ！」

「れ、蓮華さま、落ち着いてください・・・」

蓮華様がついに怒つた。わたしはどうにかして蓮華様を落ち着かせようとする。

というか明命は、なにをしているんだ。手伝ってくれてもいいじゃないか。

「おねこしゃま・・・」

・・・ダメだ。

ておくれた。

「もー！どこななのよー！」

いったいわたしにどうしろというんだ・・・
蓮様、早く帰ってきてください・・・

side・蓮

夢を見ている。
生まれる前の夢だ。

俺は大学生だった。

大学生といつてもそれほど頭のいい所ではなく、そこそこの中堅私立大学。

しかも、運良くセンター試験で高得点を出せたために入ることができたくらいである。

ていうか、センターの現代文楽すぎじゃね？がっばり稼がせていたきました。

まあ、数学はやばかったけど・・・

閑話休題

大学生活も8ヶ月ほど過ぎ、実家へ帰省しようとして夜行バスに乗った。

1時間程過ぎ、ウトウトし始めた頃

突然の衝撃と共に

完全に意識が落ちた。

死んだと思ったか！？俺もだよ！

ていうか、ほんとに死んだしね。

いやー、本当にびくつりしたー。

いきなりくるんだもん、そりゃあ驚くよ。

今も絶賛驚き中。だって……

気づいたら、赤ん坊になってんだぜ？

なんだよこりゃ・・・

何か目の前に、すごい美人さんがいるし。桃色の髪に褐色の肌。・・・あれ？どっかで見たことあるような・・・

「おっ！見る、雪蓮！目を開けたぞ！」

「可愛いー！冥林、すごい可愛いわよ！」

「そ、そうだな・・・」

あれ・・・？この人たち・・・

「オギヤーーーーー」

うるさっ！誰だよ、隣でいきなり・・・

・・・首が曲がらない！

そりゃそうだよね、赤ん坊だもんね。

「あー、ゴメンね蓮華。うるさかったでしょ、よしよし」

美人な女性が、隣で泣いていた赤ん坊を抱き上げる。

ん？蓮華って・・・

えっ？まさかここって・・・

「あうあー（恋姫十無双！？）」

「あー！みつけたー！」

ん？

うん・・・夢か、懐かしいな・・・。

「もー！なんで急に居なくなったの？」

「ゴメンゴメン。急に眠くなっちゃてさ」

「むー！」

「れ、蓮華様落ち着いてください」

「思春もご苦労様」

「そ、そうおもつなら途中でいなくなったりしないでくださいよ・・・」

「おねごしまー）＊、＊）」

今日も孫呉はカオスである。

プロローグ（後書き）

誤字脱字がありましたら言ってください。直します。

アドバイス等がありましたら言ってください。参考にします。

感想がありましたら言ってください。喜びます。

第1話『鍛練開始かあ・・・二トがいいです』(前書き)

内政とか書きません。たぶん。
だって政治とかわからないもの。

第1話『鍛練開始かぁ・・・二トがいいです』

side・蓮

どうも、俺です。

本日をもって6歳になりましたー。

しかし、前世も入れると20代中盤に入っているという罨。でも、周りにはちょっと言動が大人びている6歳程度にしか思われていない。

つーか、テンション高すぎだろ子供たちよ。

だから、いつものメンバーとしか遊ばないよ。いつめんというやつだな。

大学時代はいなかったからなあ・・・。

あれ？どうしてだろう、目から水が溢れてくるよ・・・。

やっぱ、第一印象って大事だね。

俺なんか、高校時代にはいつめんはいたんだけど、その心づもりのまま大学行ったらあのざまだよ。

同じ学科に友達がほとんどいなかったよ。

サークルでめっちゃ仲いいやつもほかの学科だったし・・・

閑話休題

6歳になったということ、我が麗しのお母様から、

「あなたも蓮華も6歳になったんだから、た・ん・れ・ん、始めましょうね（はあと）」

お母様・・・その年でそれはきついつて。

というか、蓮華がやる気満々ウーマンなんですけど。

あ、思春と明命も一緒に修行するみたいね。

side・祭

今日からあの子らが鍛錬を開始するらしい。
というか、儂が監督をする。
堅殿はやらかのか？と聞いたら

「私はもう現役引退したから」
らしい。

いや、儂と同じ年じゃろうが・・・。
まあいいじゃろう。
重要なのはどのような鍛錬をさせるか・・・。

ところ変わって、鍛錬場

「さて、これからお主等は鍛錬を開始することになる。
まずは、基礎体力を鍛えることから始めるぞ。
まずは、この鍛錬場を10週じゃ。」

「アハハ、大変そうねー（笑）」

「策殿。あなたは50週じゃ」

「へアッ!? (。・111)」

side . 三人称

「それでは、位置について・・・始め!」

一斉に走り始める蓮たち。

先頭は蓮華。それに続いて蓮、思春、明命である。

明らかに蓮華が飛ばしすぎている。

5週目を過ぎたあたりから、明らかに息が乱れてきているようだった。

それにひきかえ蓮は、余裕とまでは言い難いが、しっかりとしたりズムで走っている。

それにやや遅れて、思春と明命。

そしてついに10週目。

7週目あたりで蓮に抜かされた蓮華は、今や思春や明命より後ろを位置を走っている。

「ラストスパートオオオオ!」

「ハア・・・ハア・・・」

「ま・・・負けませんっ・・・」

「・・・・・・(、(、(」

一着は蓮。それに続いて、明命、思春、蓮華である。

「最高に『ハイ』ってやつだア！」

side・祭

蓮様が一着か……。

途中や最後に言っていたことは意味がわからなかったが。

「今日からはこれを毎日鍛練の前に行うぞ。

さあ、へばっているでない！次は腕立て伏せじゃ！」

皆6歳程だというのに、新兵よりも早く終えよった……
これは将来が楽しみじゃな。

side・雪蓮

「（；、）（ゼハ……ゼハ……」

「余計なことを言うからこつたるのよ」

「う……つるさいわよ……真琳……」

第1話 『鍛練開始かあ・・・二トがいいです』 (後書き)

ちなみに大学の話は実体験です。

第2話『キング・クリムゾン！帝王はこのディアボロだ！…………でも俺

オリキャラでます。

第2話『キング・クリムゾン！帝王はこのディアボロだ！……でも俺

side・蓮

鍛練開始から一年経った。

キング・クリムゾンである。

でも歴代ボスのスタンドってなんかかっこいいよね。

DIO様かっこいいわー。なんだよ、時を止めるって。浪漫ありすぎだろ。

でも、メイド・イン・ヘブンもいいんだよなあ。

WRYYYYYYYとか言ってみたいわあ。

閑話休題

鍛練を初めて半年程経ち、基礎体力がついてきた頃、遂に武器を持つての戦闘を始めた。

蓮華、思春、明命は剣で俺は棒である。

いいじゃん別に。使いたかったんだよ。孫悟空に憧れたんだよ。同じ孫の名前を持っているから仲間意識を感じたんだよ。

そんな感じで武器での戦闘訓練を始めて半年経ち、皆そこらへんの兵士を圧倒できるくらいには強くなっている。

しかも驚いたことに、この俺の体はなかなかのチートボディだったようで、

俺より三年ほど早く鍛錬を始めた姉さんといひ勝負ができるくらいの成長具合である。

姉さんも剣を使っているのだが、冥琳・・・

なんで鞭なの？

Sなの？ドSなの？SMしたいの？女王様なの？

まあいいんだけどさ、武器なんて人それぞれだし。

ネジを武器に戦うマイナスもいるくらいだし。

そんな具合に結構戦闘において非凡なる才能を見せている俺は、鍛錬と並行して、気の扱い方を祭さんに教えてもらっている。

目標は、棒の先に気で形成した刃を作って、槍や大鎌みたいに使うことデース。

デスサイズのビームシザーズとかマカの魔女狩りとかかつこいいじやん。

そのまま気を伸ばして、如意棒！とかやってみるのもいいなあ。

side . 祭

「まずは昨日の復習じゃ。気を体内で循環させるのじゃ」

「押忍！」

しかし蓮様には驚いたわい。

まるで砂漠のように教えたことをどんどん吸収していく。

しかもそれだけでは足りないのか、気の扱い方を教えて欲しいときたものじゃ。

最初見たときにはかなりの武の才を感じたが・・・
予想以上じゃ。数年も前に鍛練を始めた策殿に匹敵しているとは。
これは、早くないうちにはわしすらも超えてしまいかもしれんな・・・。

ふはは！楽しみじゃのう！これほどまでに、武を、気を、己の持てる全てを教えることが楽しいとは。

忘れかけていた・・・血の滾るようなこの熱さ。

蓮様！あなたはどれほどまでに強くなるのか、わしに見せてくれ！

side・蓮

ふひー、憑かれたー。

いやー、大変だね。鍛練つてのは。

元現代っ子の俺にとってはきついものがあるよ。

だがこれもロマンのため・・・諦めるわけにはいかぬっ！

「ですが息抜きというものも必要だと思っわけですよはい」

そんなわけで、街に繰り出しています。

ここの街は、最近政務に関してめきめきと頭角を現している冥林と母さんによつて、かなり賑わいを見せている。

ていうか冥林その年から内政に参加するなんて・・・。

冥林主導で推し進めている計画もあるみたい。

冥林・・・恐ろしい子！

そのおかげでいろいろなものが流通しているこの街。

探してみると結構面白いものがたくさんある。

ほら、その路地裏に・・・

女の子が倒れていました。

第2話『キング・クリムゾン！帝王はこのディアボロだ！…………でも俺

ちなみに作者は、ジョジョアニバーサリーの一番くじで、
承太郎が当たりました。

第3話『女の子の名前は太史慈』（前書き）

今年最後の投稿

第3話『女の子の名前は太史慈』

side・蓮

女の子を保護しました。

気を失っていたので、城に連れて行き専属の医師に見せた。

ただの栄養失調とのこと。食事をしっかり取ればいずれ回復するだろうってさ。

それにしてもこんなに小さい子がどうしたんだろっねえ。

この街には、ろくに食べることもできないような子供は居ないはずなんだけど……。

「……………んっ」

おっ、起きたみたいだ。

「……………」

「……………」

見つめ合う俺たち。

どないせえっちゅうねん。

「……………じじ……………ぞじっ？」

「じじは城の中だ」

「お城？」

「そう、お城」

「……………」

「……………」

だまんないだよ。

「ぐ—————」

ん？

これは…………

「腹空いてんのか？」

「…………」(コクリ)

しかし、お粥が届くまであと少しくらいかかりそうだな。なんかねえかなあ。
お、あつたあつた。

「ほれ、これでも食っとけ」

「なに…………これ…………？」

「饅頭だよ。知らねえのか？」

「…………」(コクリ)

「中にあんこが入ってて甘くてうまいんだ。食べてみるよ」

「はむ……！！お、おいしい……」

「だろ？」

「ひぐっ……おいしい……おいしいよお……」

「そりゃ良かった」

「あ、ありがとう……」

「どういたしまして」

饅頭も食べ終え、泣き止んだ女の子から話を聞く。

この子の名前は太史慈。

隣町で暮らしていたが、両親が事故で亡くなり身寄りがなくなり、食べるものにも困るようになったため、なんとかしようとしてこの街に来る馬車に乗り込み
来たのはいいけれど、馬車の持ち主に見つかり追い出されたところで、力尽きたらしい。

「よく頑張ったな」

「……………」

「辛かっただろ？頼れる人がいなくて寂しかっただろ？一人でよく頑張ったな。」

もう大丈夫だ。もう安心していいよ。これからは俺がいるから」

「……………いいの？」

「ああ」

「ここにいても……………いいの？」

「ああ」

「私ね……………お父さんも……………ひぐつ、お母さんも死んじゃって……………」

でも一人で頑張らなくちゃいけないから、泣いちゃいけないと思っ
て……………」

「……………」

「でも、もう……………我慢しなくてもいいんだよね？」

「いいよ。ここにおいで」

「……………ひぐつ……………うっ、うわあああああああ……………」
俺にしがみつき、堰を切ったように泣き出す太史慈。

よく頑張ったな。

泣き止むまで、抱きしめてあげようじゃないか。

「ひぐっ……け……い……」

「ん？」

「私の真名……景……」

「いいのか？」

「いい」

「なら俺の真名は蓮だ。よろしくな、景」

「(ゴシゴシ)……うんっ!」

side・景

起きたら目の前に男の子がいた。

おまんじゅうをくれた。甘かった。美味しかった。

ここに居てもいいって言うてくれた。

泣いてもいいって言うて抱きしめてくれた。

嬉しかった。

お父さん、お母さん、私ね・・・
頑張ったよ。

泣かないように頑張ったよ。

だけど、どこにも居場所がなくて・・・。

でも、優しい男の子が、一緒にいてもいいって・・・。

だから、安心してね。

一生懸命ここで頑張るから。

私、一生懸命頑張るから。

だからずっとお空で見守っててね。

第3話『女の子の名前は太史慈』（後書き）

このオリキャラなんだけど、
恋みたいな無口キャラにするか、
マジ恋の京みたいにするか、
どっちがいいと思う？

第4話『前世では微妙だった俺が修羅場を体験するほどになるとは・・・嬉しい

あけおめ

第4話『前世では微妙だった俺が修羅場を体験するほどになるとは・・・嬉しい

side・蓮

あのあと、景を連れて母さんのところへ。
事情を話し保護してもらいたいと頼むと、

「いいわよ（はあと）」

と即オツケー。

母さんはノリで生きているのか？

別にいいんだけどさ。

何か一言あってもいいんじゃないの？二つ返事でOKって・・・。

そんなこともあり、無事、景と一緒に暮らすことになったのだが・・・

「蓮様、えへへ」

「.....」

「ムキー！どきなさい、蓮に抱きついていいのは私だけなんだから
！」

「あわわわわわ」

現在、景は俺にベツタリとくつついている。

怒りを隠すこともなく景を引き剥がそうとする蓮華。

それとは逆に、なにやら物騒な気配を撒き散らしながら睨みつけている思春。

いつものストッパー役である思春が、あんな状態のためそうしたらいいのか分からず、あたふたしている明命。

なんだよこの状況は。

ほかの奴らは見てるだけで手を出さず気はないようだし……。

っーか、こっち見て笑ってんじゃねえか。

でも、子供の嫉妬って可愛いものがあるよな。疲れるけど。

蓮華や思春の俺に対する好意には気付いてはいたが……。

しかし、ここまで景がデレるとは思わなかった。それより睨みすぎて目がひどいことになっているよ、思春。

子供がしていいような目じゃないよそれ。

それに気付いているにもかかわらず、ますます俺に密着してくる景。

もうだめば。

たすけて、めーりん。

side・思春

蓮様が女の子を保護した。

そう聞いて、会いに行ってみただが……

なんだこいつは！

蓮様にベツタリとひつついて。私だってまだしたことないに……。こんな新参者に遅れを取るとは……。これはもつと積極的に行かなければ……。

side・蓮

そんなことがあってから早4年。

景も鍛練に参加し、互いに競い合って俺たちは着実に強くなっていた。

俺は気を使った身体強化ができるようになり、棒術もなかなかの腕前に。

蓮華は、剣の腕は既に一般兵を凌駕し、技術においては雪蓮に届くつかというところまで来ている。

思春は、瞬発力を活かした隙や死角を突くような一撃必殺の攻撃を主体とした戦いを身に付け、明命は、思春よりも速いそのスピードを活かして相手を翻弄する戦闘スタイルを確実なものにした。

景は、史実の太史慈と同じように弓にかなりの適性があったためか、かなりの才能を發揮し、弓に関して祭に次ぐ実力となっている。

にしても結構様になってきたなあ。

前世では考えられないくらいである。

そもそもこの世界の強さの水準が高いんだよね。

剣で丸太を一刀両断できたり、1時間全速力のぶっ通しで走り続けたり……。

ありえんだろ。

まあ、今は俺もその一員となっているわけだが……。

いかんいかん、物事はポジティブに考えねば。

前世では夢にまで見た、気を使えるようになったんだ。

未だに身体強化だけだが……。祭にしてみれば、これでもめっちゃくちや早いほうなんだとか。

しかし、目標である棒の先に気のできた刃をまとわせる、というのがなかなか難しい。

気を形にして留め、なおかつ硬度と切れ味を持たせるとなるとなあ……。

現在は、気を棒にまとわせることまでならできるようになった。

こればかりは地道に鍛練していく他にない。

まあ、精進あるのみだな。

第4話『前世では微妙だった俺が修羅場を体験するほどになるとは・・・嬉しい

お正月

実家に帰ってみたのはいいけれど

特になにもすることがない

19の夜

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9973z/>

孫家の美尻の弟

2012年1月2日00時46分発行